

第1学年通信

第1号
4月10日発行
文責：水澤 秀

【1学年団紹介】

学年主任：水澤 秀 副主任：佐藤健太

クラス	A	B	C	D	F	学年付
担任	みずさわ ひでと 水澤 秀	かさい さつき ・西 颯生	さとう けんた 佐藤 健太	おしの ゆうだい 押野 祐大	かまだ だい 鎌田 大	いたや まこと 板屋 誠
教科	国語	家庭	地歴・公民	理科	商業	保健体育
副担任	おどりば ようへい 踊場 洋平	いとう やすゆき 伊藤 康之	ちば はるひと 千葉 春人	うら ひろあき 浦 弘昭	いたはし なおや 板橋 尚哉	おおね だえつえ 大根田悦江
教科	保健体育	数学	音楽	商業	英語	実習助手

入学おめでとうございます

本日、第77期167名の入学が許可されました。これから3年間の高校生活が始まります。今後、節目ごとにこの「第1学年通信」を発行する予定ですが、これは基本的に保護者の皆様に読んでいただくためのものです。どうかご家庭で、お子様と一緒に一読していただければ幸いです。



マスクなしの学校生活が復活します

この4月から、学校内でのマスク着用義務がなくなりました。

息苦しいマスクを外してスッキリする子もいれば、マスクを外すことに抵抗を感じている子、外していいものかどうか悩んでいる子など、さまざまな葛藤も出てくるものと思います。特に今年の新入生たちは、中学での3年間をマスクとともに過ごした世代であり、もしかしたら、同じ中学校出身であっても、素顔を見せるのが恥ずかしいと感じる子もいるかもしれません。

私たち教職員は、マスクを外すことを強制はしません。いまだコロナ感染は終息していませんし、感染予防のため、体調管理のため、またはそれ以外の心理的理由からマスクをしていたいと思う子は、これまで通りマスクを着けてもらって結構です。場面によって、着けるべきか外すべきかを自分で判断することも、社会性という点では大事なことです。

ただ、中学とは違う新しい生活が始まり、これまでの自分を変えてみたいと考えている子にとっては、「マスクを外す」というのは一つの大きなチャンスでもあります。

高校に入ったら新たな気持ちで勉強を頑張りたい、とか、マイナス思考の自分の性格を変えたい、とか、新しい部活動にチャレンジしたい、などといった時に、マスクを外すというのは気分を変えるきっかけにもなり得るのではないのでしょうか。

感染リスクのないところでは「マスクを外してみようかな」と、自分から思ってもらえるよう、われわれは促していきたいと思えます。

高校と中学の違いについて

高校は中学と違い、授業の単位を取得しなければ進級も卒業もできません。単位を取得するためには、5段階評価の成績で「1」（いわゆる「赤点」）を取らず、欠課時数を総時数の2割以内に抑える必要があります。

注意していただきたいのは、この3年間、ちょっとした微熱や風邪症状によって学校を休んだ場合には出席停止扱いとなり、「欠課（欠席）」にはカウントされなかったということです。しかし、新型コロナに対する国の対応が変わったことで、今後はそうした体調不良による欠席はすべて「欠課」となります。こうした欠課が2割を超えると単位は認定されません。したがって、中学時以上に体調管理は大事です。また、スマホばかり見ていて昼夜逆転した生活となり、遅刻・欠課が増えていくという事例もあります。

高校生ともなれば、体調管理や生活習慣の確立は、基本的に自己責任です。けれど、高校生活が軌道に乗るまでは、ぜひご家庭でもお子様の体調や生活習慣に気をつけてください。そして、気になる兆候があれば、早めに担任・学年主任までご相談ください。

SNSの危険性について

今や小学生でもスマホを持っている時代です。おそらく、今年の新入生もほぼ全員がスマホを所持していることでしょう（私はいまだにガラケーですが……）。

スマホが財布代わりになっている現代、日常生活の必需品であることは事実ですが、その一方で、高校生の“いじめ”のほとんどがSNSがらみで発生していることもまた事実です。さらに、ネットの利用から思いもよらぬ犯罪に巻き込まれることもあります。

高校ではネットパトロールも実施していますが、生徒たちのSNS内で起きていることを、われわれ教師が把握することはできません。おそらく保護者の皆様も、お子様がSNSの中で、誰と、どのようにつながっているのかを、きちんと把握できてはいないのでしょうか。今は「大丈夫だ」と思っている、高校生のSNSによる交友関係は瞬く間に拡大していきます。

だからこそ、お子様のご家庭での様子も担任や学年主任に教えてください。そして、何か気がかりなことがあれば、すぐにご相談ください。

高校時代は立派な社会人となるための準備期間です

「立派な社会人となる」「町や国から必要とされる人材となる」。そのための準備期間が高校時代です。そのためにはまず礼儀や挨拶、言葉遣い、人間関係の作り方から学ばなければなりません。しかし（私にも身に覚えがありますが）、高校時代は失敗の連続です。ただし、何かにトライしようとした失敗と、「楽をしよう」「ごまかそう」という態度の失敗は本質的に違います。その差を見極め、生徒の積極的なトライ&エラーを引き出せるよう、われわれ教師は、生徒たちの“正しい失敗”を認められる集団でありたいと考えています。生徒だけでなく、われわれ教師も、保護者の皆様も、人間である以上はミスがつきものです。そのミスを隠すことなく、お互いのミスやエラーから多くのことを学んでいけるような関係を築ければ、これに勝る喜びはありません。親と教師がともに手を携えて、子どもたちの成長を見守っていきたいと思いますので、なにとぞよろしく願いいたします。